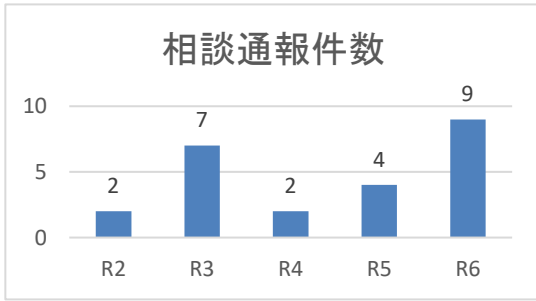


令和6年度 障がい者虐待通報件数等

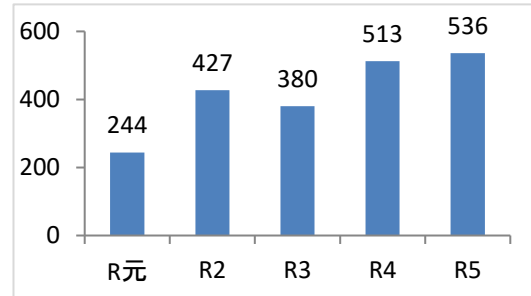
R7.3.31現在

【養護者虐待】

1 相談通報件数



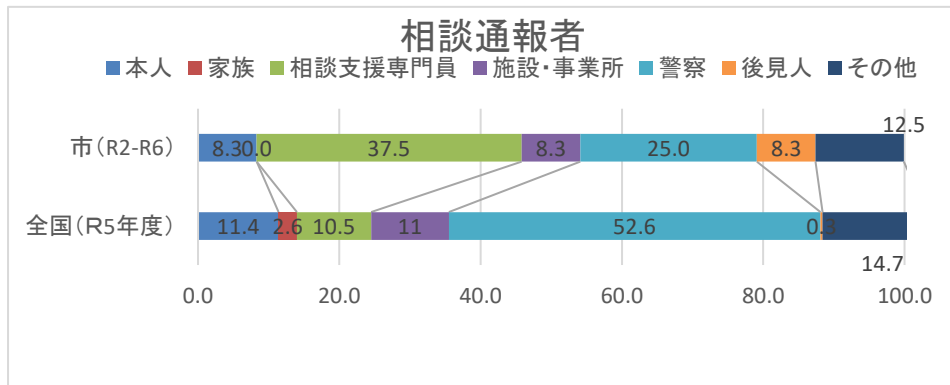
※兵庫県



2 相談通報者

令和2年度から令和6年度の相談通報者は、「相談支援専門員」からの通報が37.5%と最も高く、次いで「警察」からの通報が25.0%である。全国では警察からの通報が一番多い。

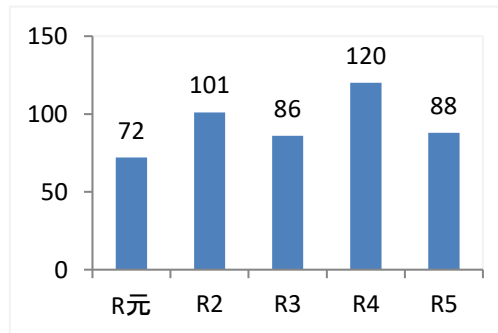
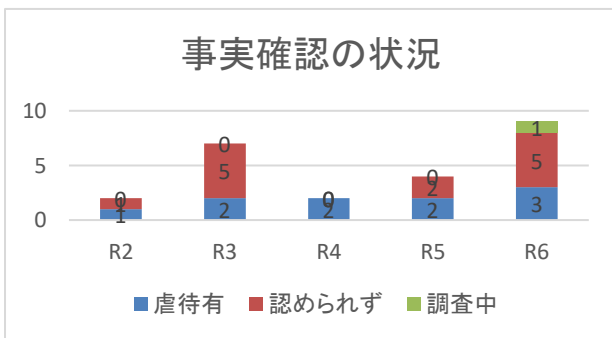
	本人	家族	相談支援専門員	事業所職員	警察	その他
R2年度	1		1			
R3年度	1				3	3
R4年度			1		1	
R5年度			2	1		1
R6年度			5	1	2	1



3 事実確認の状況

事実確認の結果、虐待と判断したケースは、令和2年度から令和6年度で10件あり、41.7%を占めている。

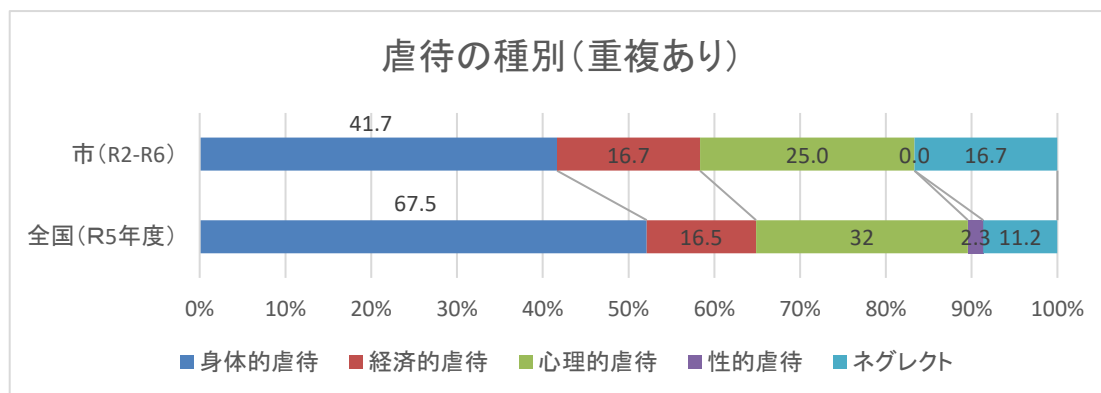
※兵庫県 事実確認調査の結果 虐待が認められた件数



4 虐待の種別(重複あり)

令和2年度から令和6年度の虐待の種別は、「身体的虐待」が41.7%と最も多く、全国と同じ傾向である。

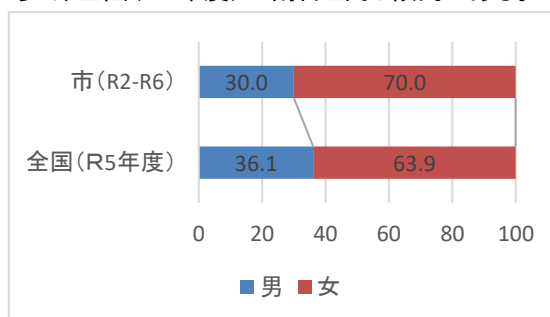
	身体的	心理的	経済的	ネグレクト	性的	計
R2年度		1				1
R3年度	2	1				3
R4年度	1		1	1		3
R5年度	1		1			2
R6年度	1	1		1		3



5 被虐待者の性別

令和2年度から令和6年度の被虐待者の性別は、女性の方が多く、全国(R5年度)の割合と同じ傾向である。

	男性	女性	計
R2年度		1	1
R3年度	1	1	2
R4年度		2	2
R5年度		2	2
R6年度	2	1	3

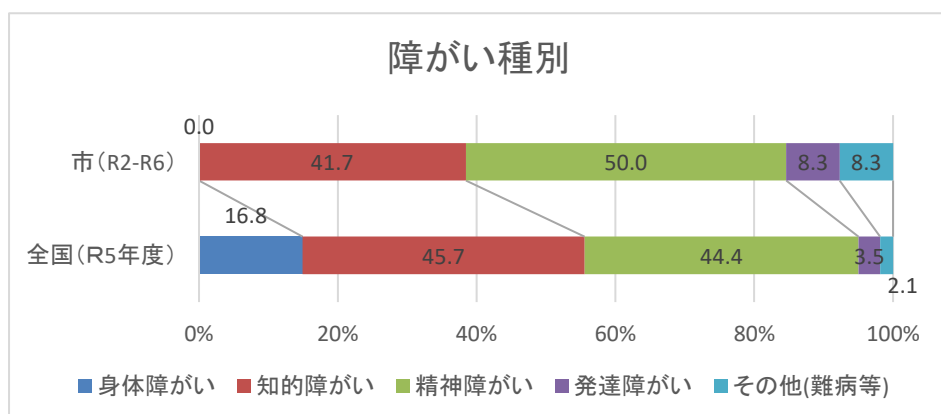


6 被虐待者の障がい種別(重複あり)

被虐待者の障がい種別では、「精神障がい」50%、次いで「知的障がい」が41.7%である。

全国は、「知的障がい」の方の割合が一番高い。

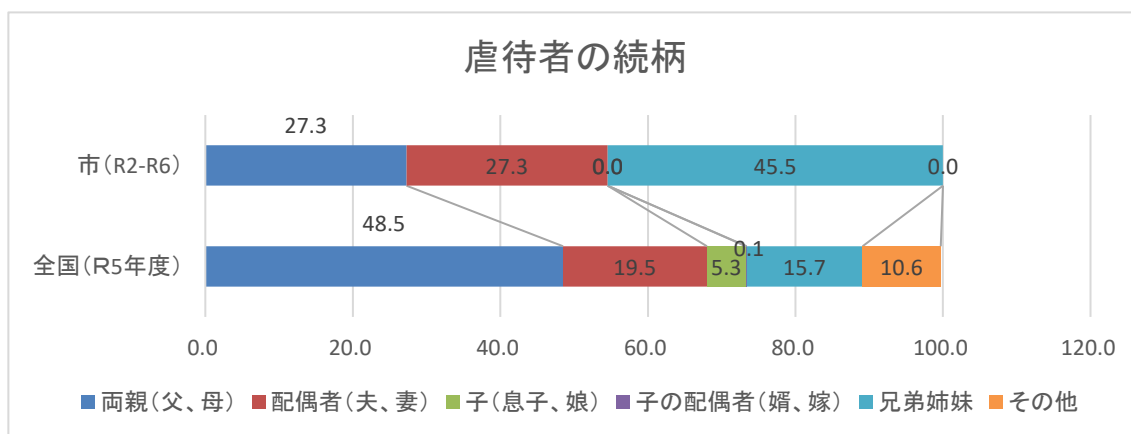
	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難病等	計
R2年度		1				1
R3年度			2			2
R4年度			1		1	2
R5年度		2	1			3
R6年度		2	2	1		5



7 被虐待者からみた虐待者の続柄(重複あり)

兄弟が45.5%で一番多く、次いで「両親」「配偶者」が27.3となっている。全国(R5年度)では、「両親」からの虐待が一番多い。養護者自身が障がい者等であるケースや生活困窮等世帯など全体に支援が必要なケースが多い。

	両親	夫	娘	兄弟姉妹	兄の妻	甥	姪	計
R2年度	2							2
R3年度	1			1				2
R4年度		1		1				2
R5年度		1		1				2
R6年度		1		2				3



8 虐待に至った要因

- (ケース1) 被虐待者が虐待の認識なし。家庭における経済的困窮。
 (ケース2) 虐待者の知識・情報不足。被虐待者の行動(発達特性・アルコール依存)。
 (ケース3) 虐待者が虐待の認識なし。介護に対するストレス。被虐待者の行動(近所トラブル)

9 対応状況

	終結		対応中	計
	サービス調整 養護者支援	分離		
R2年度	1	1		1
R3年度	2	1	1	2
R4年度	2	1	1	2
R5年度	1		1	2
R6年度	1		2	3
計	7	3	3	10

- ①医療へのつなぐ・養護者支援
 ②計画相談員を中心に本人への支援、③アルコール相談へつなぐ、本人への金銭管理支援

【対応中のケース】

①夫からの身体的虐待のケース

金銭に関するトラブル等により、夫婦喧嘩がエスカレート。
 弁護士介入により、自己破産手続き中。日常生活自立支援契約をすすめている。
 金銭管理に対する支援が入り、安定したら「終結」とする予定。

②実兄からの食事の準備や洗濯、服薬管理が出来ていないネグレクトケース

R6.4月受付案件であり、1年かけて計画相談員を中心に居宅介護サービスの利用や通所事業所による服薬管理をするなど、関係機関と連携して改善が進んだ。(R7.5月終結)

③夫からの心理的虐待ケース

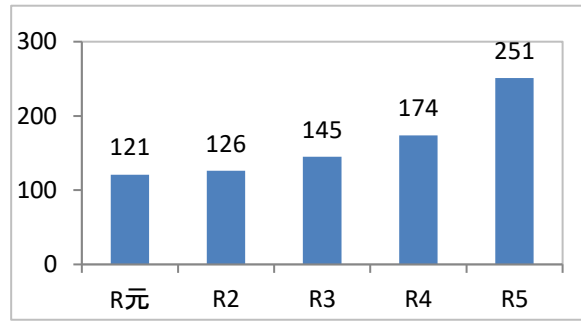
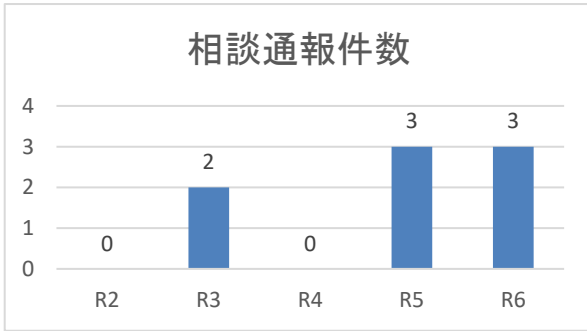
虐待の要因となっている本人のアルコール依存症改善への支援を進めている。(夫も含め)

また、金銭管理にも課題があり、弁護士の介入により、自己破産に向けて支援継続中。

【障がい福祉施設従事者虐待】

1 相談通報件数

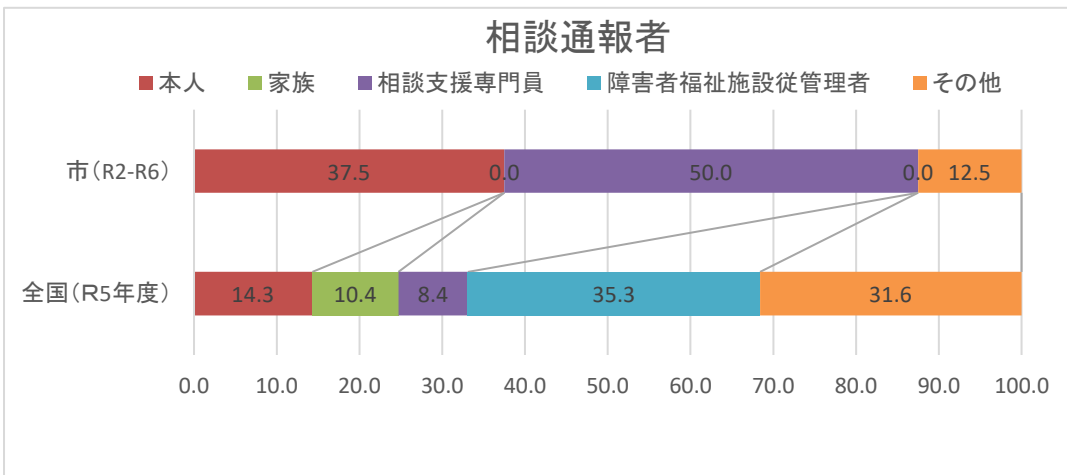
※兵庫県



2 相談通報者

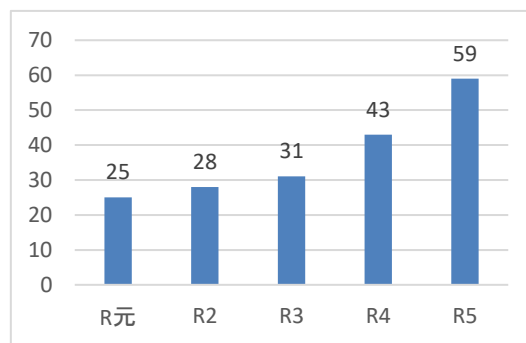
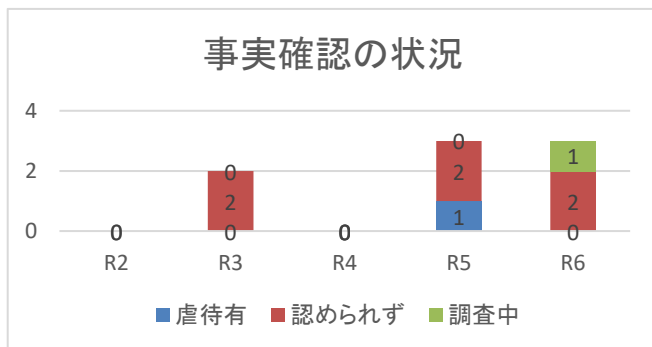
相談通報者は「相談支援専門員」が一番多く、次いで「本人」からの通報が37.5%となっている。全国的には、施設従事者職員からの通報が35.3%が一番多い。

	本人	家族	相談支援専門員	施設従事者	その他	計
R2年度						0
R3年度			2			2
R4年度						0
R5年度	1		1		1	3
R6年度	2		1			2



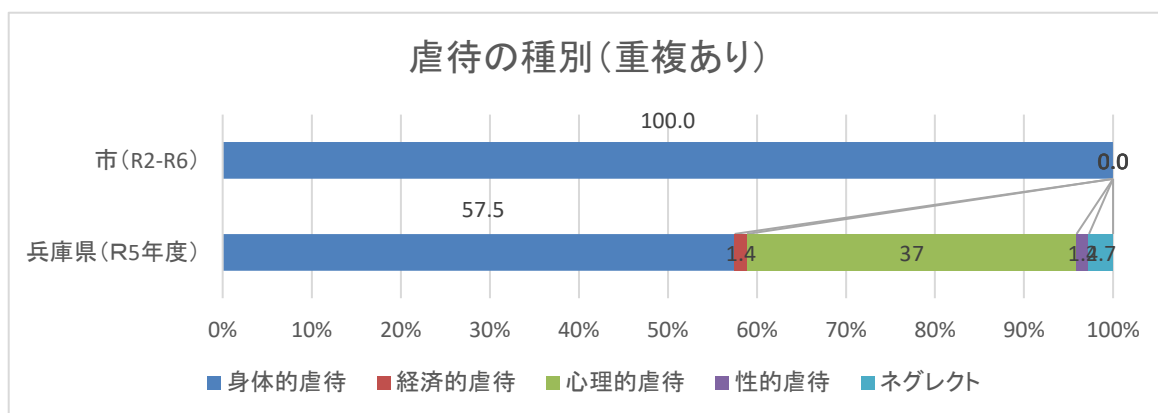
3 事実確認の状況

※兵庫県 虐待有の件数



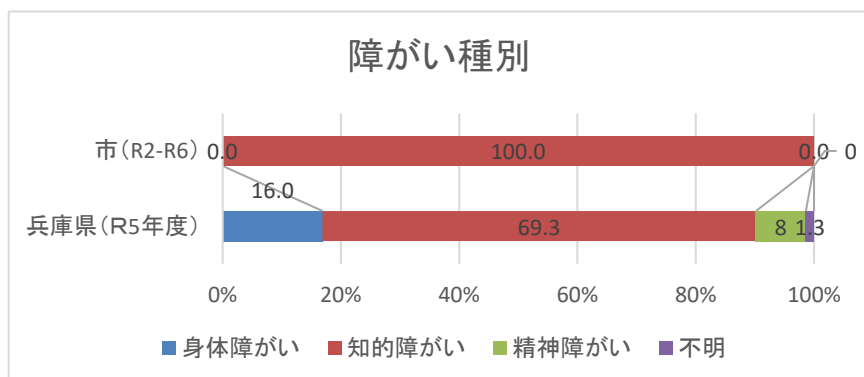
4 虐待の種別(重複あり)

	身体的	心理的	経済的	ネグレクト	性的	計
R5年度	1					1



5 被虐待者の障がい種別(重複あり)

	身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	計
R5年度		1			1



6 対応状況

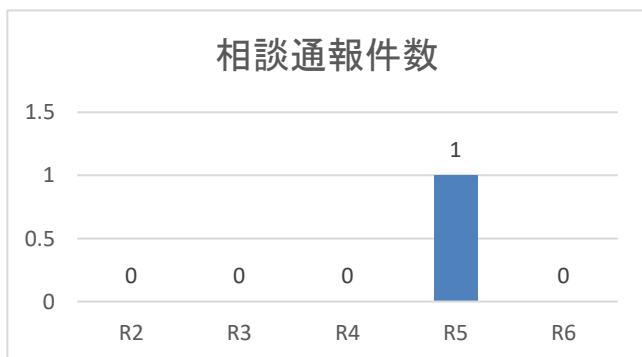
	終結		対応中	計
	権利擁護支援	分離		
R5年度			1	1
計				1

【対応中のケース】

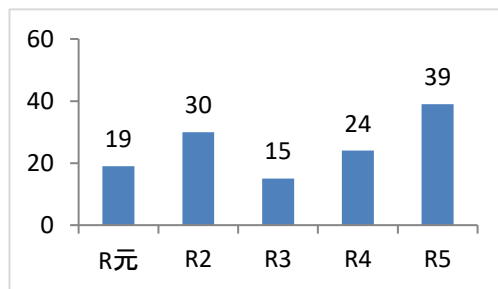
R6.4月に改善計画書を受領。1年後のR7.5月に改善結果報告書を受領。R7.6の定例モニタリング会議にて、「終結」の有無を判断する。

【使用者虐待】

1 相談通報件数



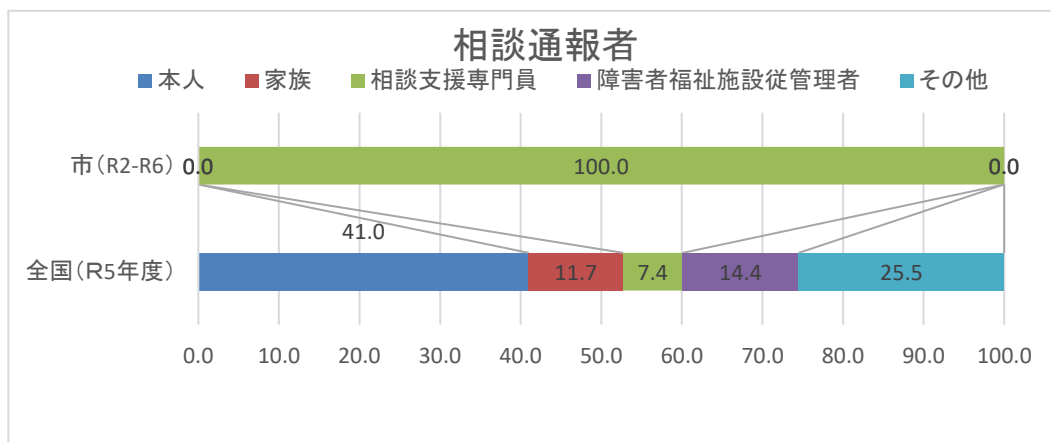
※兵庫県



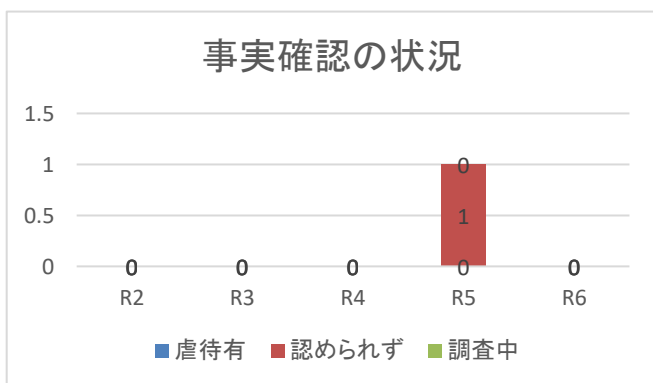
2 相談通報者

相談通報者は相談支援専門員で、これまで本人や家族からの相談はない。

	本人	家族	相談支援専門員	事業所職員	後見人	計
R5年度			1			1



3 事実確認の結果



※兵庫県 虐待有と判断した件数

